

# ☆☆図書室だより☆☆ ☆第40号☆

## ☆☆- 図書委員会よりお知らせ -☆☆



平和聖日にあたり、おすすめしたい本と、併せて新しく買った本の紹介をさせていただきます。

《購入書》	書名	著者名・出版社・発行年など
イエスは戦争について 何を教えたか	暴力の時代に敵を愛 するということ	ロナルド・J・サイダー 著 後藤敏夫 解説 御立英史 訳 あおぞら 出版 2021.5.25 [赤 190.4 Si]
女性の生きる力と聖書の言葉	大学チャペルの四季	棚村恵子 著 青山社 2015.9.10 [緑 198.34 Ta]
図説 クリスマス全史	起源・慣習から世界の祝祭 となるまで	タラ・ムーア 著 大島力 日本語版監修 黒木章人 訳 原書房 2021.11.30 [黒 386. Mo]



古屋治雄 阿佐ヶ谷教会主任牧師

### 『自由と解放のメッセージ 出エジプト記とイザヤ書から』

大島力 著 教文館 [緑 194.0]

大島力先生からこの度表記のご著書を図書室にもご寄贈いただきました。この説教集は、出エジプト記とイザヤ書40章以下の御言葉を解き明かして下さったものです。大島力先生は2021年度に三田教会の代務者となられ、主任牧師を欠くその群れに親しく呼びかけて下さった説教が元になっています。

大島先生が熱き言葉で、エジプトで奴隷として喘いでいた民にイスラエルの神が如何にモーセをとおして呼びかけて下さったか、また時代は変わり捕囚の民にまた捕囚後の民に第二イザヤ、第三イザヤをとおして神様がどのように神の民を導いて下さったか、今日の私たちのコロナ状況下やまた様々な現実をふまえて語って下さっています。

よく存じ上げている大島先生のこの説教集を是非阿佐ヶ谷教会の会員の皆さんが読んでくださるようお勧めいたします。



信徒伝道者 李 曉静 先生

### 『平和とは何か 聖書と教会のヴィジョン』

[橙 193.1 Br]

W.ブルッゲマン 著 小友聡・宮寄薫 訳 教文館

平和という言葉は、ヒブル語では、シャロームです。私たちの世界はいつの時代でも、平和を真剣に求め、めざしています。逆に言いますと、私たちの世界、そして、歴史は、いつの時代にも、平和がないと言っても過言ではないのです。なぜ、私たちの間に、平和が訪れないのでしょうか。それはこの世はイエス・キリストの平安を、平和の君イエス・キリストを受け入れないからです。キリストの平和を抜きにしては、世には平和が訪れません。イエス・キリストは罪と敵意と争いが溢れるこの世界にお生まれになり、十字架の血によって、平和を打ち立てて下さいました。

ブルッゲマンは、『平和とは何か』の中で、シャロームが神の与える贈り物であることを強調しています。シャロームの中心はイエスであり、シャロームに通じる気付きを与えてくれるのが、聖霊の働きによるほかにないと言います。

キリストの霊に結ばれた者として、平和の実現に努める者でありたいです。

《ご寄贈書》	書名	著者名・出版社・発行年など			
いま、聖書から聴く	22の平和説教(メッセージ)集 学生YMCAブックレット	日本YMCA同盟 編著	かんよう出版	2015.9.28	[緑 198.34 Ni]
自由と解放のメッセージ	『出エジプト記とイザヤ書から』	大島力 著	教文館	2022.5.30	[緑 194 O]
戦中・戦後の暮らしの記録	君と、これから生まれてくる君へ	暮らしの手帖社 編集	暮らしの手帖社	2018.7.24	[黒 916. Ku]
現代キリスト教と将来		古屋安雄 著	新地書房	1984.11.20	[赤 190. Fu]
権威と服従	近代日本におけるローマ書十三章	宮田光雄 著	新教出版社	2004.2.16	[赤 192.1 Mi]
激動の時代を生きて	—社会学者の回想	隅谷三喜男 著	岩波書店	2000.4.24	[黒 289.1 Su]
現代に生きる新渡戸稲造		佐藤全弘 著	教文館	1988.10.16	[黒 289.1 Sa]

## 『いま、聖書から聴く 22の平和説教集』



学生YMCAブックレット 日本YMCA同盟 編著 かんよう出版 [緑198.34 Ni]

たとえば私たちは「善きサマリア人のたとえ」をどう読んできたでしょうか？ 「神はご自分にかたどって人間を創造された」という一言をどう読んでみましょうか？ それらを今日の文脈の中で読むとき、そこには「通り一遍の倫理的な教え」などではない、さまざまな見方があり、議論を呼ぶような、具体的で、大きな問題が含まれていることがわかります。「聖書は戦争をどう捉えているのですか？」とか、「キリスト教はSDGs（持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals）についてどう考えているのですか？」と問われても、事はそれほど単純ではないのです。ただ主イエス・キリストがどう語られたか、私たちがそれをどう読み、どう考えるのが大切です。

わずか150頁ほど、本体価格 800円のブックレットですが、考えるためのヒントが22箇所も入っています。「分厚い説教集は重いんだよなあ」というかたもぜひ、手に取っていただきたいと思います。

(神学生 NOR!)



## 『イエスは戦争について何を教えたか』

ロナルド・J・サイダー 著 御立英史 訳 あおぞら出版 [赤 190.4 Si]

正直に疲れました。旧約から新約の何千年、加えて聖書からは離れた数々の事象を事細かに落とすことなくつぶさに記述して解説しています。膨大な資料を縦横無尽に使い分けてまるでデータベースの倉庫を開けたようです。

キリスト教（またはイエスキリスト）をもっとよく理解したい、知的に味わいたいという意欲の旺盛な方にはうってつけの著書と思います。どの章、節を見てもすべて説教に使えるような事柄が網羅されています。

ただ、著書の初めの部分でジョン・ハワード・ヨルダーについての記述にはあまり納得できませんでした。サイダーさんによれば最高の神学者で、倫理学者であるヨルダーの影響を多分に受けたとのことですが、ヨルダーは右の手で神学、倫理学を説きながら、左の手は同時に全く逆の行いをしていた事実です。「悪いことはしていても立派な論文を残している」 マフィアが人を殺しながらたまに良いことを言えば、それでいいのでしょうか。奴隷船の元船長がアメイジンググレイスをのちに作ったのとはちょっと違うような気がします。

(信友会 A.T)